

一 般 質 問

令和 3 年 9 月 8 日
第 3 回広尾町議会定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	6	志 村 國 昭
2	1 1	旗 手 恵 子
3	4	前 崎 茂
4	1	松 田 健 司
5	1 0	小 田 雅 二

通告順序 1 質問者：志 村 國 昭

1. 「大丸山展望台」を含めた観光振興は

大丸山森林公園を、まちづくりの核とするサンタランドのシンボルゾーンと位置づけ施設整備されているが、展望台に至る道路は、頂上付近で一部崩壊し、長期間通行止めされ、展望台を含めた一体的なゾーンとしては、マイナスのイメージとなっている。

今年度から2か年にわたり、事業費約1億5,000万円の大きな予算を投じ改修されるが、工事が完了した時点で、麓のサンタランド施設への集客に結び付けなければ、投資の意味がない。

展望台への通行を可能とし、大丸山全体を観光資源と位置づけるべきと思うが

- ① 日高山脈襟裳国定公園は、国立公園化への機運が高まっているが、これまで長い間、日高管内三町と連携し四町広域宣伝協議会が行ってきた活動にとっては期待が大きい。帯広市や近隣町村では効果を見据え、すでに活動が始まっていると聞いている。

本町は、どのように捉え、サンタランドとの関連戦略にどう取り組むのか。

- ② 大丸山の頂上からは、太平洋・十勝平野、また日高山脈など四季折々の眺望は素晴らしく、南十勝では唯一の展望台である。麓のサンタの家、庭園などと一体化することで周年の集客に期待ができる。

頂上沿線の道路補修、草木の繁茂対策など環境整備を積極的に行い、安全確保の上、展望台を含めた観光振興に取り組むべきと思うが。

2. 「学校指定かばん」の採用で通学負担、経済的軽減を検討する考えは

以前「重い通学かばん対策を」という新聞報道の中で、小中学生の「通学かばん」が、健康に影響を与える重さに達していることに、文科省が全国の教育委員会に工夫を求める方針を示したとの記事があった。

これを受け、道内人口上位10市のうち、札幌市など6市の教育委員会が小中学校に対して「負担軽減に配慮するよう要請した」と報じられ、市教委は教材を学校に置いて帰る「置き勉」などの対策を例示した。「置き勉は家庭学習に影響がある」との慎重論もあったが、小中学生や保護者などから「重すぎる」との声を受け止め、「置き勉」を含めた対策に踏み切

った学校があったようだ。この「重すぎる通学かばん」については、テレビの報道でも取り上げられ、特に小学生への身体的負担が大きく、その原因は「ランドセル自体の重さに加え、更に4キログラムにもなる教科書、教材を背負わせることが児童の負担と発育に影響がある」とのことであった。高価なランドセルを6年間使用する児童はほとんどなく、また家庭の事情で数万円もするランドセルを買ってもらえない子供は、どう感じているのか、考えさせられる報道であった。

道内では、小樽市が昭和45年頃から、また旭川市の大有小学校では、40年以上前から軽量の「学校指定かばん」を採用している。更に全国的に見ると京都府南部や滋賀県、大阪府、奈良県の一部の公立小学校120校以上の小学生がランドセルではなく、軽い「学校指定かばん」を背負って通学している。ランドセル自体の重さが1.3キログラム、価格数万円のランドセルに比べ、防水生地を使った「かばん」は「660グラムと軽く、雨、雪などに耐え、また収納などの機能性も高く、通学軽減につながっている」とのことで、「6,000円程度の価格は、親の経済的負担の軽減にもつながる」と評価が高い。みんなが同じ「かばん」で通学することで「格差の解消」につながることも大事な要素ではないかと思う。

広尾町においても、このような「学校指定かばん」の採用を検討する考えはないか。

通告順序2 質問者：旗手 恵子

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策と支援策は

① 新型コロナウイルスワクチンの接種状況はどのようになっているか。

「9月中接種完了」の見通しは。

② 新型コロナウイルス感染者で自宅療養が増えるなど、感染拡大の兆候が見られるが、商工業、福祉、医療施設への支援は。

2. 介護保険の「補足給付」の変更による影響は

① 2021年度、国の制度改正により8月から料金改定されたが、特養・老健施設、特にショートステイでの負担増加が大きいと思うがどのように考えるか。

② 国の議論の方向性では、この先は預貯金だけでなく不動産を要件に入れようという方向にある。格差拡大が助長されるのでは。

1. 人工透析治療施設の早期整備を

本町の人工透析治療患者数は、年々増加傾向にあり、ここ数年は25人前後となっている。

昨年第4回定例会でも人工透析治療に係る施設整備について質したところであるが、本年4月に人工透析患者の通院治療を受けている有志の皆さんから本町議会に対し、広尾町国保病院に当該施設整備の要望が提出されたところである。過般、総務常任委員会で趣旨採択をしたところであるが、患者の皆さんの切実な要望であり、重く受け止めなければならないと認識をするものである。患者の皆さんが、安心して本町で人工透析の治療が受けられるよう国保病院に施設整備を早期に推進すべきではないか。

2. 町営合葬墓の整備について

近年の核家族化や少子高齢化の進行並びに高齢者の単身世帯の増加の下で、価値観の多様性など、お墓に対する考え方や祭祀のあり方等、時代の変遷とともに変化している。

このような状況の下で、本町においても「子供が本州など遠方にいるので負担をかけたくない」、「お墓を建設する費用が高額で工面できない」などの声が寄せられている。

道内における自治体営の合葬墓の設置状況はどのようなになっているのか。

十勝では、帯広市が平成28年度から「合同納骨堂」を設置し運用し、使用料は焼骨1体につき7,200円で利用されている。池田町でも今年度から1,200体の遺骨を収容できる「合同納骨塚」を整備し、使用料を1体10,000円で受付をはじめたところである。音更町でも今年度設計、来年秋には供用開始を予定している。

本町でも町営合葬墓の早期整備を進めるべきでは。

通告順序 4 質問者：松 田 健 司

1. 大規模降雨災害や土砂災害への対応について

7月3日、静岡県熱海市の大規模土石流災害、8月13・14日での広島、九州での前線の停滞に伴う線状降水帯の発生による大規模水害等、降雨による水害が多発しているが、広尾町での降雨による水害の想定や取組、今後の課題について町長に伺う。

1. 新型コロナワクチン接種後の副反応について

新型コロナウイルスのワクチン接種が進むにつれ、いろんな副反応が明らかとなり、その後遺症に悩まされている町民も増えつつある中、自治体としてもその内容をできる限り調査、記録、検討する必要がある。

個人情報の問題も出てくるが、その症状の内容の公開等もケースによっては、有益な情報やよりよい対応へ結びつく事にもなると考えられるが、どのように考えるか。

2. 役場職員他町村との職務上の定期的交流について

他町村との学習的、啓発的かつ定期的な交流の場を持つことで（リモートにしても）様々な情報を得ることとなり、同時に自己研鑽や意識の向上にも繋がると思う。

現在、その様な機会があるのか。また、この事についての考えは。